

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071800702		
法人名	有限会社 ケアサービス九州		
事業所名	ふぁみりー菰田		
所在地	福岡県飯塚市菰田西3丁目9-10		
自己評価作成日	令和4年8月23日	評価結果確定日	令和4年9月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和4年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に含まれる自立・自己決定・生活の継続を意識し、家庭的な生活を送って頂けるよう心掛けています。例年、地域での行事には積極的に参加します。ホームでの催しには自治会の回覧版を活用させていただきなど協力を頂いています。また27年、地域の拠り所としてホームを活用して頂ければとカフェを開きました。ご家族様同士や他施設との交流も生まれ、入居者様にも楽しんで頂ける日が出来ました。ここ数年休店状態が続きました。今年、再開致します。玄関はいつも開け放していますので、いつでもお気軽においで頂きたいと思えます。季節を感じてられる食事、楽しんで頂ける行事(レク)を提供しつつ、安心と満足の日々を過ごして頂ける支援を行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中、訪れる者の気持ちが明るくなる程、玄関のドアはこれまで同様に広く開放され、地域行事の参加やケアカフェ再開を待ち望みながら、朝礼時に理念や月目標を唱和し、日頃のケアの振り返りや意思の統一を図っている。入居者の大声や伴侶への言動の背後にある感情を分析したり、食時用エプロンの着用を統一し、入浴や排泄時はできることを見極めながら「ここ(ドアの外)に居ます」と待つケアを実践している。良好な医療連携で、長年ホームで生活された方を今年5月に看取り、家族から良い別れができたことと謝辞を受けている。勤務時間内での研修参加で人材育成に努め、全職員が「阿吽」の呼吸で一丸となって入居者が安心できる暮らしを支援している。地域密着型ネットワークの初代代表を努めた運営者は、ネットワークなどでBCP作成について情報を共有する予定で、「地域社会とともに理想的な介護サービスを提供する」との基本理念に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **ふぁみりー菰田**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に「理念」と、合わせて月目標を唱和。理念を意識した支援の意思統一を図っている。月目標は管理者が考え提案している。	朝礼時の理念や9月目標の「安心はさわやかな笑顔から」の唱和は、日頃のケアの振り返りや意思の統一の好機となっている。職員は笑顔で対応することで入居者も笑顔になると実感しながら、個々の入居者に応じたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は自粛中だが、例年は「いきいきサロン」や地元子供の廃品回収等参加。ケアカフェも各月から毎月へと計画変更届を出し再開出来るのを待ち望んでいる。	コロナ禍の中、訪れる者の気持ちが明るくなる程、玄関のドアはこれまで同様に広く開放され、地域行事の参加やケアカフェ再開を待ち望む思いが溢れた佇まいとなっている。	運営者が他市で小学生対象にオンラインで開催された認知症サポーター講座を地域でも開催され、地域との交流がさらに促進することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表は認知症サポート養成講座や市民講座の講師を数多く引き受け「認知症」に対する正しい理解を広める活動を行っている。管理者もキャラバンメイト、市高齢社会対策推進協議会の委員として活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年であればご家族の参加が多く、活発な意見交換もあり、入居者様へのサービス提供に活かすことが出来ていた。現在は、書面での開催が多くなり、現在はメールや月1のお便りで近況報告等行っている。	感染防止に配慮し、運営推進会議メンバーに定期的に運営状況を書面で報告している。家族にはホームだよりで会議開催を知らせ、会議録は1階の事務コーナーカウンターで公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者とは定期的に連携は取っているが、市の相談員とは暫くコンタクトは取れていない。事故報告等は市へ報告、指導を受けている。	先日、入居者の心身の状況に応じた施設への転居を支援した経緯などを、県や市に報告している。運営者は地域密着型ネットワークの初代表を務めた経緯もあり、ネットワークなどでBCP作成について情報を共有する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束「0」を宣言中。毎月の「身体拘束及び虐待廃止会議」では拘束にあたるか否か細かな所まで話し合い防止に努めている。全職員が外部研修に参加し、事業所内でも勉強会を行っている。	全職員が参加した会議で、食食用エプロンの使用について話し合い、統一したケアを実践している。エプロン着用は後方からではなく、声をかけて横からとし、着用を拒否される場合は説明し、了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止に付随して会議を行っている。また、「虐待の芽」シートを活用し意識確認を定期的に行っている。毎月全員参加での廃止会議は有意義な話し合いの場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表は成年後見人を引き受け、管理者も市の成年後見人制度(1期生)の受講者である。職員にもいつでも学べるようパンフレット等は準備している。	管理者は、市民後見人研修の一期生であるが、活動には至っていない。現在、制度を活用されている入居者はないが、随時活用できるように、玄関にパンフレットを整備している。	今後さらに多様な家族構成が予測されることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容やその違いに関する研修を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は十分行っている。ご家族の質問等にも理解して頂けるよう時間を費やしている。最初の看取り、重篤に関する話し合いもここでやっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが利用には至っていない。最低でも月1の面会を望む意味で利用代の支払いを手渡しで協力して頂いている。コロナ禍で玄関先数分間ではあるが、ご意見等しっかり伺うようになっている。	アイパットでの面会希望は少なく、ホームの暮らしぶりは玄関で短時間の面会時などや電話などで報告し、意見を伺っている。毎月1の便りを待ち望む家族もあり、率直な意見を伺う機会となっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで全職員が意見を出しあっている。必要に応じて個人面談や少人数での食事会を慰労を兼ね行っている。代表や管理者に相談ごとでは行えている。	毎月朝の申し送り後、ミーティングを開催している。基本理念の「自立、自己決定、生活の継続」の具現化を話し合い、24時間の業務内容を勤務時間で明確に区別するのではなく、協力し合う体制を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の改定があり子連れ出勤が追加された。長く継続の親睦会に加え永年表彰制度等も導入され職員の士気も上がる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、国籍等で判断しない。地域においても個々の能力が十分果たせるよう勤務面に対処している。また、家庭を大切にすることを優先できる勤務体制に配慮している。管理者は民生委員として毎月の会議に参加している。福祉委員をしている職員もおり地域での活動も活発に出来る環境である。	管理者の口コミで入職した職員もあり、夜勤専従や非常勤などを含め、40歳代～70歳代までの男女の職員が勤務している。「県主催のゼミは参加者で話し合ったテーマの研修ができる」と笑顔で話す職員は、「阿吽」の呼吸で全職員が一丸となって入居者が安心して暮らしを支援できたことは今後の糧となると、生き生きと勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間研修計画(必須研修)に入れ込んでいる。全職員、外部研修にて1回受講。事業所内では外部より顧問の社会労務士による研修を1回行っている。	入居者と職員の其々の人権を尊重するために、不適切なケアを自己及び他者の視点からチェックする虐待の芽シートの活用を継続したり、ハラスメントに関する研修を年間研修に組み入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修として県主催の介護技術向上研修(6時間)を毎年受講。スキルアップしている。今年度は半年間かけてのゼミナールに2名の職員が臨む。当日は勤務扱いとなり、交通費、受講費は会社負担。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	例年であれば地域密着型ネットワークの会議に定期的に参加。運営推進会議も他事業者との交流の場にもなっている。また、同系列ではあるが職員交流、研修あり。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学をして頂いている。本人の詳細な状態把握で生活力が見えてき支援の統一性を見出すことが出来る。両者納得の上での入居を心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係こそが支援の基礎だと考えている。ご家族の要望は出来る限り取り入れるよう心掛けている。良い支援への接点探しの話し合いも十分に行うよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人全体として、小規模多機能に紹介して在宅に復帰したケースもあり。他のサービスの利用も視野に入れている。医療の選択も本人である。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを奪わない支援を心掛けている。また、「ありがとう」を言われる機会を作ることを大切にしている。朝の掃除・下膳・洗濯物干し・畳は共同作業である。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自粛状態であるが、例年であれば運営推進会議・家族会・誕生日会・餅つきと行事や会議参加は多くの家族が協力的であった。毎月のご家族へのお便りもコミュニケーションの一環。続けていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族宛てに年賀状作りを支援しています。お返事も返ってきます。お花見も地域になじみのある場所でお弁当を広げます。温泉も行きました。	玄関に設けられたコーナーで時間を制限した面会をお願いし、家族宛ての年賀状は「字になっていない」との感想もあるが心温まる恒例行事となり、家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中ホールではテレビは付けていません。相撲・高校野球は朝からでもつけてます。皆様と賑わって観てます。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆ど、亡くなってからの退居であるため、関係が薄れているのが実情ですが、「近くに来たので寄りました」と立ち寄って頂くことも稀にあります。今年もお二方の初盆に伺いました。「又、新聞紙を持って行きますね」とご家族。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人との対話を大切にしている。その中から見えてきた要望・希望・嗜好の好き嫌い等の情報をミーティングで話し合い、実行できることから行動に移すようにしている。全職員が共有できるよう連絡ノートを活用。	新規入居者の家族に生活背景等伺う書面を送付している。日頃の関わりから意向の把握に努め、入居者の大声は職員を手助けしたい思いから、伴侶に対する言動は自ら介助できない辛さからではと分析している。	入居者の言動の背後にある感情の分析や、アセスメント内容の変化は印字を変えて追記するなどの工夫で、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れている。本人・家族からの生活状況を細かに情報収集。その内容を全職員が共有する為、ミーティングや連絡ノートを活用し伝えている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を引き出せる支援を心掛けている。本人の言葉・行動を記録に残し、その日の心身の状態を訪問看護師と連携を取りながら把握に努めている。家族との面談も行い出来ること探しを行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎日チェックしている。ケアカンファレンスはその成果と新しい課題を協議、分析する。利用者、家族、職員の意見・要望をまとめ介護記録に反映するよう努めている。	入居者や家族の意向、日々のモニタリング結果を話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。囲碁をしたいとの思いを受け止め、対戦は難しいが関連記事などを紹介したり、座位保持が継続できるケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の気づきは日々の業務日誌、介護記録に書き込んでいる。また、職員の出勤時には情報が伝わるよう連絡ノートを活用し支援の統一を図っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の諸事情で病院受診が不可能な場合はホームで柔軟に対応している。また、車椅子使用者の受診には公用車で送迎を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年であれば地元開催のいきいきサロンや本人様に関わりある地域のサロンへの参加を支援しています。本人様に覚えがなくてもご近所さんから声掛けがあると懐かし気に話を合わせられ楽しんでおられる姿も見られました。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人様・ご家族の思いを確認します。かかりつけ医の選択は出来る体制をとっています。現在、3医院から2週間ごとの診察を受けておられます。24時間対応で救急医療体制、連携も取れています。	現在は全入居者が其々、3ヶ所の協力医療機関から定期的な訪問診療を受けている。24時間オンコールが可能な訪問看護事業者とも連携しながら、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1の訪問看護。お一人お一人の状態に応じて適切な処置をされる。ホームとの連携は密に取れている。要望に応じてミーティングにも参加、医療的アドバイスを頂くことも。24時間体制のオンコールもしっかり機能している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院との情報は共有しあっている。入居者が早期に戻って来れるよう支援方法を協議。安心して帰って来れる体制をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重篤、看取りについてご家族の意向を伺いますが、状況によって考え・思いが変わることも視野に入れ、折に触れご家族の思いが聴けるよう配慮している。ご本人とは自然な会話の中で看取りを考えて頂いている。	長年ホームで暮らし、ホームでの看取りを希望された方を、家族間で異なる意向を十分に話し合いながら、今年5月に看取っている。最期に本人に話しかけ、手を握りながら良い別れができたと言われ、家族から謝辞を受けている。良好な医療連携で職員の看取りに関する不安はなく、今後も看取りを支援予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成。必須研修として全職員が学んでいる。事故発生後は訪問看護師を交え振り返りと実践指導を受ける機会を持っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災・通報・避難誘導訓練は行っている。水害の場合は経験から避難場所は2階と定めている。非常食、P-トイレ、マットなど常備している。	年2回火災訓練を実施し、水害の場合は2階を避難場所としている。備蓄一覧表を1階の事務コーナーの壁に掲示している。市の補助金や市主催の研修等で、感染防御関連品の購入や防御衣の着脱などを学んでいる。	自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時における事業継続計画の作成にあたり、系列事業所のクラスター発生時の対応が活かされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画で「プライバシー保護の取り組み」を必須研修として全職員が学んでいる。プライバシー侵害とみられる行為があれば即、注意・指導を行っている。職員同士が指摘し合える仲になれば最高にいい。	入浴や排泄時のプライバシーに配慮し、できることを見極めながら「ここ(ドアの外)に居ます」と声をかけ、待つケアに努めている。声かけが及ぼす影響に配慮し、「〇〇してください」ではなく、「〇〇してくださいね」と、穏やかな声かけを実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助をし過ぎないことで、本人様の思いが聞けその思いに寄り添うことができるのではと思っている。日常の会話の中に沢山の選択、決定があることを意識した支援を心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・お茶・入浴の時間はほぼ決まっている。他の時間帯は個々に過ごされている。その時間が癒し、寛ぎの時間になるよう支援しています。日中ホールでのテレビ観賞は高校野球・相撲以外はかけていない。居室は自由。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は基本ご自身で選んでいただきます。「良く似合ってますね」「いい色ですね!」「素敵!」と誉め言葉が増えると自然とおしゃれに関心を持たれる様になりました。ネイルアートも楽しんで頂こうと準備しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き、手消毒、食後のトレイ拭き、職員と組んでする食器洗いは日常的。食事作りは厳しいですが、年行事の干し柿づくりは一緒に行っています。暖簾状態の干し柿を毎日眺める楽しみが生まれます。	自前の箸や湯呑み利用を継続し、誕生日当日は外食気分を味わってもらおうと、利用者担当の職員が希望の弁当探しに奮闘している。調査日は、厨房から美味しそうな匂いやまな板の包丁の音が響き、豊富な具材やさくらでんぶが飾られたちらし寿司などの昼食は、職員の見守りや介助で全入居者が完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックは毎食行い栄養状態の把握に配慮しています。水分はお一人お一人の体重から割り出し管理している。体調不良時は食材や調理方法、高カロリー飲料等で工夫を凝らし提供しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導を行いその方にあつたケアを行っている。義歯は夜に洗浄液に付け管理。また、希望者には週1で訪問歯科診療を受けて貰っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁があるからとむやみにオムツに移行はしません。トイレ誘導を心掛け自力での排泄を促しています。また、チェックをすることにより排泄のパターン化を把握、お一人お一人に添った排泄とパット使用の軽減を心掛けています。	前止めオムツの入居者はあるが、ポータブルトイレの使用はなく、トイレでの排泄を支援している。尿失禁の自覚がないため、排泄パターンをチェックし、2～3時間毎にトイレに誘導し、失禁を予防している入居者もある。管理者は、排便があつたら一緒に喜んでほしいと指導している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで管理。日頃の食事(繊維もの)、水分に気を配っています。便通を良くし腸の活発化を促す薬などを服用している方もおられますが、Drとの話し合いで極力回数を減らす努力もしています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望があれば夜間を除きいつでも入浴できる体制は整っています。現在、車椅子生活の方が多く、日に3名入浴介助を行っています。	3方から介助できる個浴槽で、週3回を目途に入浴を支援している。入浴を億劫がる入居者はないが、丁寧な声かけを実践している。車イス利用者はシャワーのみもあるが、主治医の特別指示書で訪問看護が入浴を支援する入居者もあり、状況に応じた入浴を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子生活者5名。内2名はDr指示にて食事以外はベットにて臥床。他3名は昼食後居室での臥床を促しています。(足の浮腫軽減の為)自立さん殆どは、ホールソファで傾眠もありますが寛ぎ過ごされています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の指導のもと管理をしています。誤薬などの予防の為、3段階でのチェックと確認で事故防止を徹底しています。服薬変更が生じた場合は連絡ノートで全職員に周知してもらっています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活状況や話の中から出来ることを探し周りから「ありがとう」が聞け、ご自身が喜びを感じて頂けるような支援を心掛けている。誕生日会は本人様の希望の献立、スタイルで楽しんで頂いています。まずは、沢山話しかうことから行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定例化していたバスハイク(花見・食事・温泉)が一度で楽しめる企画を全員参加で行ってました。弁当持ち込みでカラオケを楽しんだり、回転すしを堪能したり良くできてました。全員で楽しむことを基本にしています。この2年は近隣の公園でお花見をしました。	コロナ禍の中、外出の機会は減少しているが、感染防止に配慮しながら、車イスの入居者も一緒に弁当持参で、電車が見える近隣の河川敷で花見を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご自分で管理されてる方はお一人だけ。他の方はホームでお預かりしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されご家族との会話を楽しまれている方がお一人。年末に年賀状をご家族に出します。「字にはほど遠いね」と苦笑されますが「嬉しいです」の言葉を頂きます。ご家族からの賀状にどなたも笑顔です。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居間・畳コーナーがワンフロアでどの部屋にも繋がり集いやすくなっている。殆どフロアで過ごされている。柿のシーズンには広い窓から色鮮やかな干し柿の暖簾が眺められます。玄関も季節を感じて頂けるような環境作りに配慮しています。	空調管理が行届いた居間は、厨房の前のテーブルやいす、テレビコーナーにはソファ、高窓の下にはごろ寝ができる畳の間が設置されている。食後は居室で休息する車イスの入居者もあるが、居間の其々の場所で寛ぐ入居者から、穏やかな暮らしぶりが伺える。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋の戸は開けさせて頂いてますが、居室入口に手作りの暖簾をかけていますので中は見えづらくなっています。職員訪室の際は声かけを心掛けています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で本人様が使用されていた食器類で食事をして頂いています。見慣れた家具などでお部屋を整理され、家族・友達の写真を飾られるなど思い思いのお部屋で過ごされています。お仏壇を置いておられる方も。	見守りを容易にするために、家族の了解を得て夫婦夫々の居室を相互に入れ替えている。家族や友人の写真が飾られたり、家具やテレビ、仏壇が持ち込まれるなど、居心地良い居室づくりを支援している	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手すりが周りに取り付けられテレビ観賞コーナーや何時、何処でも休憩できる椅子を置いている。畳コーナーではごろ寝を楽しまれる方もおられます。置いている物が障害物とならないよう気を配っています。		